

RSC-MT4HSファームウェアバージョンアップ

4.30Aでの新機能ご紹介 ならびに 注意書き

明京電機株式会社
1.0版(2025/2作成)

弊社リブーターTIME BOOT mini [RSC-MT4HS]を平素ご利用いただき、誠にありがとうございます。
ファームウェアを「4.30A」にバージョンアップ後、使用できる機能をご紹介します。

注意：書換後、ダウングレードを行うことはできません。

《大きな追加機能》

- ・電源管理クラウド365に対応しました。

電源管理クラウド365をご使用になるには、保守パックのご契約が必要となります。

- ・一斉電源制御に改良を加えました。

親機としてコマンド実行後の結果通知をさらに改良しました。

「ガードタイム方式」選択時、子機側リブーターのWEB画面操作が可能になりました。

- ・SNMP TRAPの表現修正。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> から取得できる最新のMIBファイルをご利用ください。

- ・SSHシャットダウン時、WEB画面自動更新間隔延長機能。

対象機器のOpenSSHが7.7などで、SSHシャットダウン実行に60-70秒かかる場合、その間にWEB画面更新が行われるとWarmStartになるため、画面自動更新をSSHシャットダウン実行中だけ行わせないように時間調整できるようにしました。(OpenSSHのバージョンが8.1以降になっているとシャットダウンは10-15秒で実行できます。)

《変数等の差異》

- 先述の機能追加により、以下の変数がListに追加されています。

scEnabled

サーバー制御有効化(0[デフォルト]:無効 1:有効)

- 従来機能の改良により、以下の変数がListに追加されています。

hbHeartbeatSource

HB監視:電源供給アウトレット(デフォルト:0)

- 使用されていない変数のため、以下の変数をListから削除しました。

mailLogoutTime

httpCommandNo

- イベントログなどに表示されるエラーコードが追加されています。

エラーコード252

シャットダウンスクリプト実行中にWarm Startが発生して、
シャットダウンスクリプト実行が失敗した場合。(該当アウトレットは電源ONを維持する)

《追加機能説明》

1. 一斉電源制御

一斉電源制御の結果通知をさらに改良しました。

●親機として使用する場合

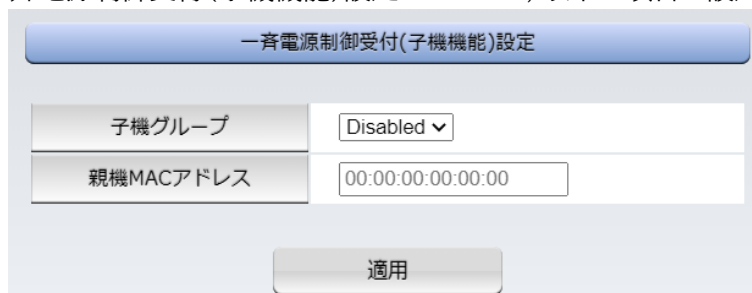
WEB画面の「電源制御」→「一斉制御」から、グループ指定・実行コマンドを指定して「送信」クリック後、3秒待機ののちに、子機応答結果を表示するようになりました。

●子機として使用する場合の設定（「ガートタイム方式」選択時）

「ガートタイム方式」選択時のみ、メンテナンスモードに切り替えずにWEB画面にて設定を行うことが可能になりました。（FW:1.20Aでは、メンテナンスモードでのみ設定可能な項目でした。）

「ネットワーク設定」-「詳細設定」をクリックします。

一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで、以下の項目を設定できます。



子機グループ : Disabled Group1~8
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。
適用をクリックし、CPUリセットを行います。

（これまでどおり、メンテナンスモードでこれらの項目を設定することもできます。）

●Telnet, シリアルでの制御と応答

Telnet, シリアルでも一斉電源制御を親機として実行できるようになりました。使用するコマンドは以下です。

（x=1~8, xはグループ番号を示します）

BPONx : 該当グループ全アウトレットの電源出力開始
BPOFx : 該当グループ全アウトレットの電源出力停止
BPORx : 該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート)

実行の後は、親機のコマンド実行結果応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

以上